



勝手に吹田遺産 その14

絵師吉田初三郎と「吹田市鳥瞰図」

心に画面左に吹田市役所、その上に丘陵を削って造られた千里山の住宅街も描かれている。鉄道や社、学校など70年前の吹田が昨日の風景のようみみかえる。説明によると昭和15年、吹田市が誕生したのを記念して翌16年に初三郎に制作依頼したらしい。

吉田初三郎は明治17年京都に生まれている。京都友禅の図案描きからたき上げ、画家を志すが恩師の「これからは商業美術の時代やぞ」との言葉に鳥瞰図の世界へ、浮世絵をおもわせる筆の運びと遠くまで見渡せる空想の世界、そして大胆な構図、誰もが見たことのない「あの町、あの風景」を描いて日本中を魅了した。本人の生活の大部分は旅とスケッチ。初三郎の残した絵地図は1千枚を超えるという。何はともあれ昭和16年の吹田の全景を残してくれた吉田初三郎と絵図を勝手に吹田遺産に。

画・文 高宮 信一

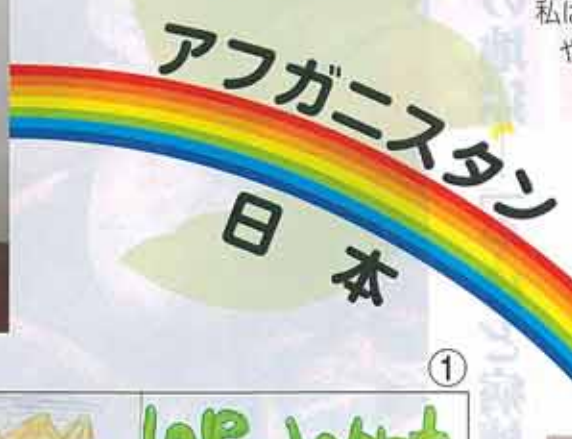
山口県立岩国総合高校の生徒たちが描いた絵をプレゼント (2010年6月)



④ 「地域主権」を突きつけている。こと「にちがいない。「地域主権」は住民の視点から出されたものでないことを物語っている。

「住民主権」の根本を欠いている限り、「地域主権」は「アメリカ主権」。「政府主権」にも、「橋下主権」にも(彼の推進する関西州については「財界主権」にも、変幻自在である。14年間辺野古の海に杭一本打たせていない、そしてこれからも続く沖繩の闘いは、「地域主権」のあいまいさを浮き彫りにし、「住民主権」を突きつけている。

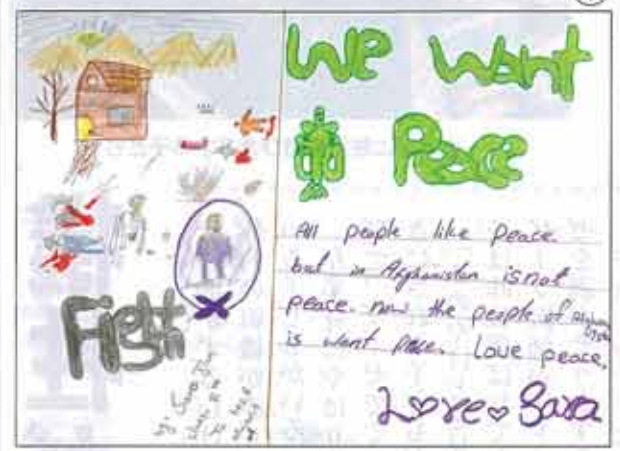
絵画を通じてエールの交換 届け世界へ平和の願い



私はアフガンを訪問する際に、日本の子どもたちが作った千羽鶴や絵画を現地へ持参してきました。そのお返しとして、現地の子どもたちがきれいな絵を描いてくれました。カブールの孤児施設に宿泊している、両親を失った少年・少女たちの絵です。ここに一部を紹介しします。なお、この絵のデータがありますので、学校や公民館などに展示を希望される方は、ご一報いただければ絵画を貸し出しいたします。

連絡先：イラクの子どもを救う会 西谷文和 06(4864)1828

豊中市立東豊中小学校の子どもたちが描いた絵をプレゼント (2010年1月)



絵画① 左半分「戦争したらダメ」。右半分「私たちは平和を求めている。みんな平和が好きなのに、アフガンは平和ではない。アフガンの人々は平和が好きだ」。サラ

絵画② 「私たちは一つ。アフガンは一つ。私たちは全て兄弟姉妹。平和を求め、あなたを愛している」。ナジーヤ

絵画③ 「私は平和が好き。みんな平和の手紙をほしがっている。日本からの手紙はとても美しい。みなさんが元気でありますように」。6年6組 グラーライ 日本の高校生へ。

絵画④ 「私は平和が好きです。アフガンの人々はみんな平和が必要です。いつも平和であってほしい。お手紙ありがとう」。マクポーラ

フォーカス

地域主権と米軍基地

「地域主権改革は、地域のことは地域に住む住民が責任を持って決めることのできる活気に満ちた地域社会をつくっていくことを目指しています」(内閣府ホームページより)

一政権与党もさまざまに新案も、橋下知事も阪口市長も、そしてマスコミも口をそろえて推奨する「地域主権」である。

一方、沖繩の米軍普天間基地の「移設」問題。県外、国外「移設」を求めて開かれた超党派の沖繩県民大会には9万人が参加し、毎日新聞・琉球新報の県民世論調査では、辺野古「移設」に反対が84%、その理由として、米軍基地の無条件撤去・国外移設が74%を占めた。にもかかわらず、政府は辺野古「移設」でアメリカと合意、辺野古に新たな米軍基地を建設する。地域主権強硬派、橋下知事は、「辺野古以外への「移設」は「もうムリ」。「沖繩県にもうお願いせざるを得ない」と、沖繩県民に敵対する。

地域のことは地域で決める「地域主権」なのに、沖繩のことを沖繩では決められないのか。こういって、「国は外交・防衛、あとは地方で、という役割分担があつての「地域主権」で...」とかいふのだが、それはお上の事情であつて、米軍基地問題も住民にとっては「地域の

届け世界へ平和の願い